

令和 7 年度 事業報告

1. 学校・園の概要

(令和 8 年 3 月 31 日現在)

設置する学校	奈良保育学院	奈良女子高等学校		奈良保育学院 附属幼稚園	白藤学園おお みやこども園	白藤学園おお みや保育園
設置課程 学科	教育保育専門 保育科	全日制 普通科	通信制 普通科			
修業年数	2 年	3 年	3 年以上 (単位制)	満 3 歳から 4 年 3 歳から 3 年 4 歳から 2 年 5 歳から 1 年	3 歳から 3 年 4 歳から 2 年 5 歳から 1 年	
学則定員	1 0 0 名	7 4 0 名	1 6 0 名	9 0 名	1 0 8 名	2 0 0 名
児童・生徒数	1 年 42 名 2 年 43 名 総数 85 名	1 年 130 名 2 年 105 名 3 年 99 名 総数 334 名	1 年 53 名 2 年 49 名 3 年 36 名 総数 138 名	満 3 歳児 22 名 3 歳児 18 名 4 歳児 13 名 5 歳児 22 名 総数 75 名	0 歳児 6 名 1 歳児 8 名 2 歳児 8 名 3 歳児 28 名 (内 2 号 11 名) 4 歳児 30 名 (内 2 号 14 名) 5 歳児 27 名 (内 2 号 10 名) 総数 107 名 (内 2・3 号 57 名 0~2 歳児は 3 号 のみ)	0 歳児 19 名 1 歳児 25 名 2 歳児 36 名 3 歳児 38 名 4 歳児 36 名 5 歳児 33 名 総数 187 名
教職員数 (理事長除く 常勤)	教員 8 名 職員 1 名	教員 28 名 (パート含む) 職員 6 名	教員 4 名 職員 1 名	教員 8 名 職員 2 名	保育教諭 11 名 職員 1 名	保育教諭 21 名 職員 2 名
役員・評議員	理事 6 名、監事 2 名、評議員 7 名					

2. 事業の概要

【学園】

- ・奈良保育学院附属幼稚園を「幼稚園型認定こども園」に運営方法を移行していく方針決定に基づき、特に必要となる施設整備面について整備内容の再検討・選択及び補助金確保の対策を理事会へ報告しながら進めてきた。

【奈良保育学院】

1. 広報活動の戦略的な展開：

- ・指定校推薦制度（入学者 7 名）や、在校生との交流が好評なオープンキャンパス（OC）を

通じた入学希望者の獲得に注力した。

- ・4府県55校の高等学校を訪問して進路担当者との連携を密にし、訪問校から35名の入学予定者を確保した。
- ・白梅寮や天理教保育士育成委員会との情報共有・連携を強化し、入寮・入学者を14名（前年度12名）へ増加させた。

2. 学生指導・支援体制の充実：

- ・合理的配慮や精神的支援が必要な学生に対し、個別対応の場を設けて粘り強く関わることで、修学困難な状況の克服を支援した。
- ・定期的な二者懇談を全学生に実施し、時期に応じた不安軽減を図るなど、タイムリーな個別対応を実践した。
- ・専門職の基本として「場を考えたあいさつ」の定着を目指し、ガイダンスや日常的な指導を通じて全体の雰囲気向上を図った。

3. 学生自らが目的をもって学修に向かい、乳幼児保育の即戦力となる学びの充実：

- ・「保育ゼミ」での園児観察や実習振り返りを通じ、保育者の援助について熟慮する力や自己肯定感を高める教育を実践した。
- ・1人1台のiPad活用を推進し、園だよりやデジタル版保育ドキュメンテーション作成など、現場で役立つICTスキルを指導した。
- ・なら100年会館にて「学びの成果発表会」を開催し、園児を招いたオペレッタ公演や学生全員による学びのプレゼンテーションを成功させた。

4. 就職指導や卒後支援の実施：

- ・1回生終了時からのガイダンスや定期的な面談により、2回生2月末時点で就職希望者のほぼ全員が内定を獲得するなど、早期の内定を促進した。
- ・実践力を高める新科目「学びとキャリアⅡ」の開設準備を進めるとともに、公立園採用試験対策講座の開設など、多様なニーズに応じた支援を行った。

【奈良女子高等学校】

1. 生徒募集：

- ・取組：奈良県の授業料無償化を追い風に、広報会議の立ち上げ、SNS（インスタグラム）発信の充実、中学校・塾対象説明会の刷新、および「県外支援制度」の広報を大阪府東部へ展開した。
- ・成果：令和8年度入学者数は155名と目標（135名）を上回り、奈良県の専願受験者数は103名（令和7年度は81名）と大幅に伸長した。インスタグラムはフォロワーが500人増加し、11月の閲覧者数が70万人を超えるなど、SNSを起点としたイベント参加者が増加した。
- ・課題：大阪私学の奈良県マーケット進出への対応として本校の魅力をより明確に発信することや、出身中学校との信頼関係構築に向けた丁寧な状況報告が必要である。

2. 教育内容：

- ・取組：探究学習「自分未来創造」を核に、マイプロジェクトや地域連携（大和みらいエンジン等）を推進し、2学期からは生成AIの活用を開始した。通信制では調理体験「楽々食堂」を新設した。
- ・成果：1年生の「NJ SDGs」がメディアに大きく取り上げられたほか、「大和みらいエンジン」での最優秀賞受賞（全国大会出場）や和菓子甲子園での活躍など、対外的な評価を得た。
- ・課題：資質・能力ベースの観点別評価への工夫や、生徒が原稿に頼らず自分の言葉で語れ

る発表レベルへのステップアップ、生成 AI の最適な活用法の検討が挙げられる。

3. 教員の資質向上：

- ・取組：新任研修の再開やメンター教員による指導、新規採用者の着任前研修（社会人マナーや建学の精神等）を新たに実施した。また、特別支援教育や生成 AI に関する専門研修を行った。
- ・成果：研修を受けた教員が探究的な授業を企画・実施できるようになり、生成 AI 研修は教員の事務効率化と生徒の学びの拡大に寄与した。通信制では、令和 8 年度からの LMS 導入準備が整った。
- ・課題：県の政策加算要件に合わせ、中堅・リーダー・管理職の各ステージに応じた研修の体系化が必要である。また、内定辞退防止に向けた着任前研修の充実や「専門家チーム」による組織的対応も求められている。

4. 安全安心な環境：

- ・取組：「個別支援委員会」による要配慮生徒への共通理解、外部連携による「放課後学習支援」の導入、育友会からの寄付による防災備蓄（水・生理用品）の拡充を実施した。
- ・成果：入学前の個別面談や人間関係づくりワークショップにより、入学時の心理的不安を軽減した。学習支援の利用者には成績の大幅な向上や新たな居場所としての効果が見られた。
- ・課題：家庭の協力を得にくい生徒への対応や、学習支援のさらなる活用、非常用簡易トイレ等の備蓄増強が課題である。また、通信制から全日制への転籍の仕組みづくりも進める必要がある。

【奈良保育学院附属幼稚園】

1. 募集、広報：

- ・ホームページブログ（145 回）やInstagram等の SNS 発信を強化し、保護者ニーズに合わせた積極的な広報を展開した。
- ・未就園児教室「ここすきひろば」と連携し、新規登録者 64 名を獲得。そこから 7 名の入園に繋げるなど、着実な園児獲得の基盤を構築した。

2. 教育内容について：

- ・PR プランナーの助言を受け、「探究が日常的に育つ園」を中核とする新ブランドコンセプトを策定し、特色の明確化を図った。
- ・園バスを活用した園外活動や畑での収穫・調理体験（キンカンシロップ、カレー作り）、玉ねぎの皮染め等、子どもの興味から発展する探究的な活動を実践した。

3. 教員の質の向上について：

- ・学園内 2 園合同研修会や近畿地区の教員研修大会への参加を通じ、ミドルリーダーの育成や職員の資質向上を推進した。
- ・月 1 回の実践事例研修や日々の終礼での振り返りを通じ、子どもの主体性を大切にする保育の在り方について共通理解を深めた。

4. 安心安全な環境、設備について：

- ・駐車場アプローチへの緩衝材設置や登降園時の立哨など、物理的な安全整備と防犯体制の徹底を図った。
- ・食物アレルギーへの二重チェック体制の徹底や、大規模地震を想定した「園児引き渡し確認カード」の作成等、非常時への備えを強化した。

5. その他懸案事項：

- ・幼児バス送迎の効率化等により年間約 211 万円の経費削減を実現し、健全な園運営を推進

した。

- ・令和9年度の「認定こども園」移行に向け、奈良市との協議や要望書提出、保護者説明会の開催など、組織的な準備を着実に進めた。
- ・退職に伴う欠員に対し、保育学院からの推薦を受けた学生2名の採用を内定し、人材の安定確保を図った。

【白藤学園おおみやこども園】

1. 園児募集と広報活動：

- ・取組：2歳児未就園児保育（登録者の約89%が3歳児入園に接続）や、民生児童委員と連携した0～2歳児対象の親子クラスを週1回開催した。園見学（年間89名）や入園説明会を通じて、特に乳児クラスへの高いニーズを確認した。
- ・成果：インスタグラムの閲覧数が最大18,000件に達するなど広報が浸透し、年度末の園児数は107名（年度当初比+2名）と微増した。
- ・課題：近隣園での満3歳児保育開始等の影響で、2歳児の未就園児登録が減少傾向にある。また、乳児の入園希望が圧倒的に多い一方で、定員上の制約から受け入れ枠が不足している点が課題である。

2. 教育・保育内容：

- ・取組：乳児クラスでは、月案や個別計画の策定手法を確立させるとともに、砂山や水遊び場など園庭の環境整備を推進した。幼児クラスでは、見通しを持って活動できるようスケジュール表やカレンダーを活用した。
- ・成果：子どもたちが自ら考えて友達と力を合わせる姿勢が育ち、自由参観等での自己表現を通じてコミュニケーション能力が向上した。また、異年齢交流により教育方針である「ともに育ちあう」姿が具現化された。

3. 資質の向上に向けて：

- ・取組：「子どもの主体性を育む保育者の関わり」を研究主題に掲げ、北野幸子先生によるオンライン研修や公開保育を実施した。日々のカンファレンスでは事例記録を共有し、保育の質向上を図った。
- ・成果：0歳児からの「学びの芽生え」を全職員で再確認し、指導計画への反映を深めることができた。

4. 安全対策・園運営：

- ・取組：事故発生防止対策会議の定例化や、毎月の遊具・保育室の安全点検を徹底した。保護者の負担を軽減する「スペシャル参観」の導入やSNSでの動画配信により、信頼関係の構築に努めた。
- ・課題：予算方針の共有は進んだが、年度途中の退職・採用の見込み管理に甘さが見られた。今後の健全な運営を維持するため、人件費管理の厳格化が急務となっている。

【白藤学園おおみや保育園】

1. 3本の保育テーマ（「からだ育て」・「アート」・「食育」）について：

- ・「からだ育て」：サーキット遊びやリズム遊び、マラソンを通じて、体力向上のみならず、困難に挑戦し最後まで頑張る意欲を育んだ。職員研修では保育学院の講師から実技指導を受け、遊びの見立てを変えることで保育の可能性を広げる視点を養った。
- ・「アート」：幼児クラスでの共同制作を通じ、園児同士の話し合いや試行錯誤を促すことで連帯感を醸成した。アート展では、展示後も作品を変化させ続けるなど、「もっとやっ

てみたい」という自発的な意欲を尊重した。

- ・「食育」：菜園活動と連動したクッキングを行い、収穫から調理、実食までのプロセスを通じて食事作りの喜びや集団で食べる楽しさを体験させた。併せて、食事のマナーについても丁寧な指導を行った。

- ・課題：各テーマにおいて、年間を通じた計画の策定と振り返りの精度を高める必要がある。

2. 職員の質向上について：

- ・取組：毎月の学習会や毎週の職員会議での振り返り、講師を招いた実技研修により、現場に直結する専門性の向上を図った。また、ヒヤリハット会議を定例化し、事故の原因究明と再発防止に組織的に取り組んだ。

- ・課題：長時間の保育が必要な園児が多い中で、職員の休憩時間を確保しつつ、研修や会議といった「学びの場」の時間を捻出することが大きな課題となっている。

3. 特別な支援を必要とする園児の支援体制について：

- ・取組：支援が必要な園児の増加に対応し、子どもセンターや教育センター等の関係機関と密に連携。園巡回相談や職員間の情報共有を通じて、多角的な視点から支援体制の見直しを行った。

- ・課題：対象児がクラスの3分の1から半数近くを占める場合もあり、一人ひとりの成長の保証と安全確保の両立には多大な労力を要している。保護者との合意形成や、専門職とのさらなる連携強化が求められている。

4. 保護者との連携について：

- ・取組：「親子交通安全教室」や「親子で遊ぼう会」など、保護者参加型行事の回数を増やすことで、園の保育方針への理解と関心を深める機会を創出した。

- ・課題：ほぼ全ての保護者が就労している現状を踏まえ、参加しやすい環境づくりや、保護者同士が交流を深められる仕組みの検討が必要である。

附属明細書

特記事項なし。